

学校関係者評価報告書

愛媛県立大洲高等学校肱川分校

学校番号 (30)

評価実施日		令和4年2月21日(月)	
委員	氏名	所属等	備考
	安川 哲生	地域代表 大洲高等学校肱川分校同窓会長	
	兵頭 勇太	地域代表 大洲市肱川郵便局長	
	岡山 順一	肱川分校 P T A会長	
	菊池 正敏	肱川分校 分校長	
	松岡 由利子	肱川分校 総務課長	
	亀岡 晋也	肱川分校 総務課	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ちょっとしたことで褒める」を繰り返すことで生徒のやる気にもつながる。生徒をたくさん褒めてあげてほしい。 ・生徒の学力向上に尽くしているが、生徒教員ともにストレスをためないような工夫も必要である。 <p>(2) 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導がしっかりできていることで、保護者の評価も高くなっている。 <p>(3) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路や職業についての指導は適切であるという意識が保護者にも多い。将来に関わることなので、引き続き指導をお願いしたい。 <p>(4) 特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活動状況とその成果について <p>(5) 保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な場面だけの連絡だけでなく、保護者との関わりをもっと工夫して行えば、今以上によくなるのではないかと。 ・コロナの影響もあり、思うような活動ができないことが多いかと思うが、「コロナだからできない。」を減らす努力が必要になってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の個性を尊重し、あらゆる成功体験を繰り返すことで生徒の自信を高めさせたい。 ・基礎・基本を重視した丁寧な授業とICT環境の有効活用を心がけ、学習に対する苦手意識を克服させるよう努めたい。 ・在籍している生徒の多くはまじめで落ち着いている。数名の不登校傾向の生徒が少しずつ改善されてはいるが、遅刻や欠席を少なくするためにも家庭との連携、協力体制を強固なものにしていきたい。 ・個人の適性や興味・関心に応じた進路先の提案を進めている。進路に対する意識の低い生徒が多く、低学年から時間をかけて意識改革に努めていきたい。 ・バドミントン部、卓球部ともに定通制体育大会で県予選を勝ち抜き、全国大会への出場を果たした。部活動での教員や生徒同士の雰囲気も良く、適度な汗をかいてリフレッシュすることが精神の安定に役立っている。挨拶や礼儀作法、練習の準備や片づけにも積極的に取り組み、生徒の精神的な成長に繋がっている。 ・新型コロナ感染対策として、学校に保護者や地域の方が集まって実施する行事や活動が制限された結果、保護者との関わりも例年より少なくなってしまう。肱川だよりやPTA月報、ホームページなどによる情報発信はしているが、保護者や地域の方々との直接の交流の場を少しでも多く取り入れられる工夫をしていきたい。
<p>2 学校評価アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の進路についての生徒の回答に消極的なものが多い。 ・全体的に生徒の評価が良くなっている傾向が見える。生徒とのコミュニケーションを大切にされている結果だと思う。 ・生徒一人一人をよく見て、学習支援をされていると思う。 ・家庭でやるべきことに対して、学校に頼りすぎている。 ・学校の教訓についての回答が消極的である。先生全員が教訓を理解し伝えることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する意識の低い生徒が多く、低学年から時間をかけて意識改革に努めていきたい。 ・生徒の個性を尊重し、丁寧な対応を続けている成果が少しずつ出ているのかもしれない。今後とも、生徒に寄り添いながら、丁寧な指導に努めたい。 ・生徒自らが目標を掲げ、主体的に学べるよう基礎基本を重視した学習支援を継続していきたい。 ・家庭との連携を密にし、生徒だけでなく保護者にも寄り添うことで信頼関係を築くことができる。より理想的な家庭との協力体制構築のために継続した努力が必要である。 ・学校の教訓の意味を教職員全体で再確認し、生徒に伝えるための工夫をしていきたい。
<p>3 学校経営への提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肱川分校ならではの特色がでてきている。先生方が生徒にしっかり向き合っていることが高い評価に繋がっている。今後とも特色ある教育の推進をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度肱川分校に入学・転学等してきた生徒のほとんどがこれまで学校に登校できていなかった生徒であるが、現在は元気に通学してきている。ここに肱川分校の存在意義があることを改めて痛感した。本校独自のゆっくりとしたリズムで生徒としっかり向き合う教育を今後とも継続していきたい。